

# Libra I on 13

<http://www.libra-sc.jp>

vol.

りぶらいおん

特集：2011年、  
りぶらが贈る20歳の20冊

新春、大增ページ!!

1. 宇宙は何でできているのか：村山 斉
2. 永遠の0：百田尚樹
3. 風の歌を聴け：村上春樹
4. 「幸せなお産」が日本を変える：吉村 正
5. 幸せの新しいものさし：博報堂大学幸せのものさし編集部
6. 人類進化の700万年：三井 誠
7. 沈黙：遠藤周作
8. 天涯：沢木耕太郎
9. 電波がわかる本：後藤尚久
10. 徳川家康：山岡荘八
11. 夏への扉：ロバート・A・ハインライン
12. 21世紀に生きる君たちへ：司馬遼太郎
13. 日本語が亡びるとき：水村美苗
14. 漂泊の王の伝説：ラウラ・ガジェゴ・ガルシア
15. 街場の教育論：内田 樹
16. メディア・リテラシー：菅谷明子
17. モンテ・クリスト伯：アレクサンドル・デュマ
18. 六人目の犠牲者：江川紹子
19. ワイルド・サイドを歩け：ロバート・ハリス
20. わたしのきもちをきいて：ガブリエル・バンサン





## 2011年、 りぶらが贈る20歳の20冊

2011年に  
新成人になる皆さんへ

ご成人おめでとうございます。  
新しい世界へ歩き出す皆さんに、「りぶら」から、とっておきの20冊の本を紹介させていただきます。とはいえ、数ある本の中から20冊を選ぶのはとても大変。今回最終的に選ばれた本は、ほん(本)の入り口です。できれば、ここに紹介された本の棚の前に立ち、周りも眺め回してみてください。きっとあなたの心に呼び掛ける一冊が見つかるはずです。図書館の本棚には、皆さんのアンテナに磨きをかける役割もあるのです。(企画・選書責任:戸松恵美)

※出版社の後ろのアルファベットと数字は、図書館の分類番号です。

### 『宇宙は何できているのか 素粒子物理学で解く宇宙の謎』

村山 斉 / 著 幻冬舎 I 429.6

「宇宙はどうやって始まったの?」という、誰もが持つ素朴な疑問の回答を求めて宇宙の果てを見に行くと、そこは原子核より小さな素粒子の世界になっていく。ノーベル賞学者の湯川秀樹や小林誠、益川敏英・南部陽一郎の理論に触れながら、素粒子物理学の基本中の基本がやさしく説明されている。物質の根源や宇宙の運命など、人類の永遠のなぞを最新の研究結果で解明する。



### 『永遠の0』 百田尚樹 / 著 太田出版 913.6

特攻で戦死した祖父の足跡を調べるため、祖父とともに戦った人々を訪ねる姉弟。「あんな臆病者はいない」「私が生きて帰れたのはお祖父さんのおかげだ」など、様々な証言から描き出される祖父の本当の姿。おろかな戦争の不条理さの中で、家族を愛し、生きて帰ることを常に考えた祖父は、なぜ特攻で死んだのか…。ほんの65年前に戦争があったという事実をぜひ知ってほしい。



### 『風の歌を聴け』 村上春樹 / 著 講談社 913.6

時代は変わっても、青春時代の葛藤は変わらないかも…

本書は村上春樹の処女作にあたります。主人公「僕」と友人「鼠」との間で交わされる、軽妙な会話。登場する「彼女」との、ちょっとエッチなやりとり。1970年の夏、海辺の街でくりひろげられるそのすべてが、ほろ苦い青春の風景をあざやかに切りとっています。本書に登場するサンドウィッチにビール…、いけますよ。



### 『「幸せなお産」が日本を変える』 吉村正 / 著 講談社 I 495.7

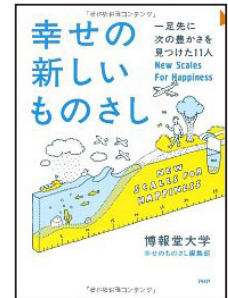
2万例以上のお産に取り組んできた吉村医院院長が、産科学と現代社会を痛烈に批判。お産は本来怖いものではなく、女が本当の「女」「母親」になる、何度でも産みたくするという、女性にとっての至福であるはずなのだ。少子化・不妊・虐待など、社会的問題を「お産」を通して考える。そして、「いのちは家族と地域で育てるもの」というメッセージを発信し続けるスゴイ先生が岡崎にいるなんて!と、嬉しく誇らしくなります。



## 『幸せの新しいものさし』 博報堂大学幸せのものさし編集部 PHP 研究所 675.0

一定先に次の豊かさを見つけた 11 人

幸せのものさしを変えてみませんか？ 知恵が付き、いろんなことが分かってくると、なおさら「手詰まり感」が強くなっていく。こうした生活者の意識の成熟が消費の縮小を生み、それが企業の「手詰まり感」の要因となっている、今はそんな時代ではないか。どうしたらこの「手詰まり感」をブレークスルーできるのだろうか。



## 『人類進化の 700 万年 — 書き換えられる「ヒトの起源」—』

三井 誠 / 著 講談社 I 469.2

科学的な自分探しの出発点

先日、20 歳前後の子と結婚生活の話をしていたら、「人間は生物的に浮気をするようにできている」という、トンデモ理論を大まじめで語られてしまった。実はこれ、人類学的に言えば大間違い。そもそも「現代人」とはどのような動物なのかを、科学的な視点でバランスよく描いた本書は、哲学とはまた別の視点で、人生を生きていく基盤を提供してくれるはず。人類と自分の「今」をとらえる格好の一冊。



## 『沈黙』 遠藤周作 / 著 新潮文庫 B 913.6

いわずと知れた遠藤周作の名作。『沈黙』の意味をこんなに考えさせられようとは、読み始めた時には思いもしなかった。「神とは、信仰とは、人間の弱さとは？」「本当に大切なものとはなにか？」そのあまりにも重たい主題に、答えのない渦の中に放り込まれ、ぐるぐると回っているような感覚になる。「本を読む」ことの醍醐味を、たっぴりと味わえる一冊です。



## 『天涯』 沢木耕太郎 / 著 スイッチ・パブリッシング 748

息が詰まる日本を脱出したい君、よその国に人々は...

アジアからヨーロッパまで旅した元祖旅作家の沢木耕太郎が、歩く自分の目の高さから見ることでできる情景を撮った写真集。1 枚で完成した写真ではなく、連続した写真から、その土地の空気や人の暮らしが見えてくる。アジアからヨーロッパ、アメリカの空や海、歩いている人たちなど、また、写真に添えられた文も詩的で、現実を忘れさせてくれる。



## 『電波がわかる本 なるほどナットク!』 後藤尚久 / 著 オーム社 547.5

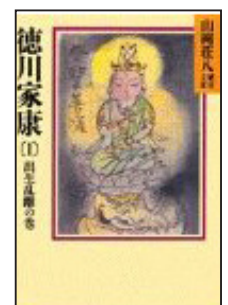
見えない電波が見えてくる

今や携帯電話やテレビ・ラジオは、生活に欠かすことができないツール。その仕組みを知りたくありませんか？ それらのツールを稼働させているのが、目には見えない「電波」。大学の教科書、とりわけ電磁気学の教科書では、電波（電磁波）を難しく説明しているものが多いが、本書は、電気力線と磁力線を絵や図で解説し、飛び交う電波の有様を易しく解き明かしてくれます。



## 『徳川家康』 山岡荘八 / 著 講談社 913.6

応仁の乱以来の戦国の世を治め、世界に例を見ない 260 年にわたる平和な時代の礎を築いた徳川家康の生涯を描いた時代小説。山岡荘八は終戦の焦土の中であって、平和な世界を築くとはどういうことかを模索し、本書を著すことでその答えを探ろうとした。最近では、中国でも家康ブームが起こっている。長編だが、岡崎市民としては読んでおきたい名著である。

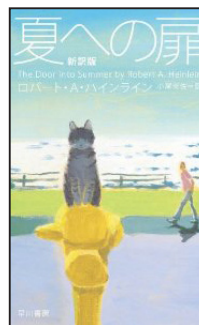




『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン / 著 早川書房 933.7

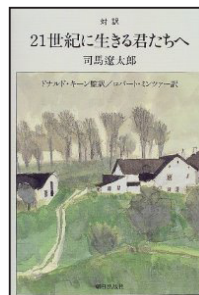
「夏への扉」は必ずあると信じていることが...

最愛の恋人と親友に裏切られ、仕事を失い、生命から二番目に大切な発明さえも奪われてしまったダン。自暴自棄になったダンは、すべてを忘れるために冷凍睡眠を選択。30年後のダンは、過去を取り戻すことができるのか？ 1956年に発表された本書の舞台は1970年。ダンが目覚める30年後の2000年はすでに過去になってしまったけれど、落ち込んだときには何度も読み返したい1冊。



『21世紀に生きる君たちへ 対訳』 司馬遼太郎 / 著 朝日出版社 F914.6

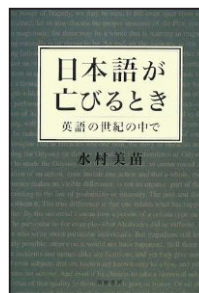
「竜馬がゆく」「坂の上の雲」など、数々の歴史小説を書いてきた著者の、次世代の若者に向けてのエッセイ。もともとは、小学校用の国語教科書への書き下ろしで、「歴史」「未来」「人間」についての考えが、わかりやすく綴られている。見開きで、英語の対訳(ドナルド・キーン / 監訳、ロバート・ミンツァー / 訳)が記載されているので、読み比べてみるのもおもしろい。



『日本語が亡びるとき — 英語の世紀の中で —』 水村美苗 / 著 筑摩書房 810.4

「英語の世紀」の中で、日本語が亡びるってどういうこと？

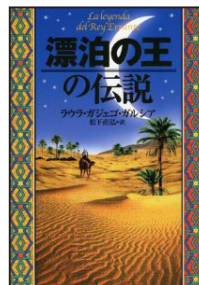
小学校でも「英語」が教科になる、そんな時代に生きる私たちにとって、「日本語」や「国語」は何を意味するのか？ 著者は、小説家はそのうちに英語で小説を書き始めるのではないかと推測し、日本の国語教育は、まずは日本近代文学を読み継がせることに主眼を置くべきであると主張する。なぜ近代文学なのか？ 言語と文化への洞察が提示されている。



『漂泊の王の伝説』 ラウラ・ガジェゴ・ガルシア / 著 偕成社 963

私は毎日この世でなにか新しいことをなっています...

砂漠の王国キングの王子ワリードは、貧しい絨毯織りの詩によって、夢と名誉を奪われてしまう。憎しみにかられたワリードは、「人類の歴史をすべて織り込んだ絨毯」をつくれと命じるが...。人の運命は定められているのか、変えることができるのか？ 漂泊の王となって「運命」に翻弄されるワリードと、実在の人物が重なる7世紀のアラブの物語。



『街場の教育論』 内田樹 / 著 ミシマ社 370.4

学びの扉を開く「合言葉」、それは...?

「どうふるまっていいいのかわからないときに、適切にふるまう」能力、欲しくありませんか？ わからないことがあれば、わかっていそうな人を探り当て訊く。そして、答を教えてもいいような気にさせる、って簡単そうだけど、これが案外大仕事。でもそれって結局、コミュニケーション力があるってことなんですよ。そんな便利な能力に関する話を、教養教育という思いがけない視点から、鮮やかに描いてくれています。

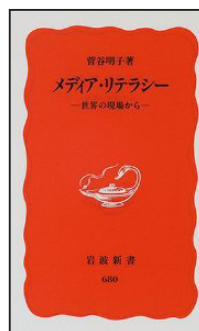


『メディア・リテラシー — 世界の現場から —』

菅谷明子 / 著 岩波新書 I 361.4

情報を、そのまま信じていいのだろうか...

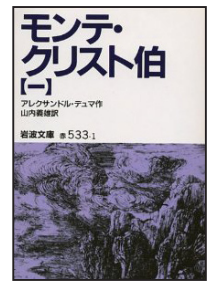
現代は、メディアと関わりの無い生活は考えられない社会。四六時中、ニュースは世界をめぐる、多くの番組や映画が放送されている。さらに、インターネットの普及により、個人レベルでの情報発信が容易になった。情報は、視点を変えると真実も異なって見える。ものごとを複眼でとらえ、情報について考える機会にして欲しい。



『モンテ・クリスト伯』 アレクサンドル・デュマ / 著 岩波書店 B 953

「物語」のおもしろさがたっぷり味わえる

『巖窟王』というタイトルでも知られた物語。原作は19世紀半ばのフランスが舞台。主人公エドモン・ダンテスが無実の罪で監獄に送られ、そこで長い年月を過ごしたのち、脱獄して巨万の富を手にし、モンテ・クリスト伯爵として自らを陥れた者たちに復讐する。復讐劇にハッピーエンドはあり得ないが、モンテ・クリスト伯爵が最後にどんな選択をするのかも、読みどころのひとつ。



『六人目の犠牲者 名張毒ブドウ酒殺人事件』 江川紹子 / 著 文芸春秋 916

1961年春、三重県・奈良県にまたがる小さな部落で、寄り合いで出されたブドウ酒を飲んだ5人の女性が毒死した事件を追ったドキュメンタリー。警察は市民を守ってくれる、裁判は真実を明らかにしてくれるという、誰もが当たり前だと思っていることが、根底から覆される衝撃的な内容。思い込みや決めつけ、集団心理の恐ろしさなど、日本の裁判というシステムの暗闇、冤罪（これが事実であるならば）とはこうして作りあげられるのか、と驚愕せずにはいられない。



『ワイルド・サイドを歩け』 ロバート・ハリス / 著 講談社

僕が僕であるために...

「今の人生に不満を感じている、思い切ってドロップアウトしたい!」「一度きりの人生を存分に楽しみたい」そんな人、必読です! 本書は、「どんな生き方を強いられても、自分なりの欲望を追求していこう!」と、謳っています。この本を読んで、あなたの本能と欲望の声をはっきりと聞こう! 社会的な仮面や鎧を脱ぎ捨て、ありのままの姿でいられる、そんなワイルドサイドを歩け!



『わたしのきもちをきいて』 ガブリエル・バンサン / 著 BL出版 E

成人になったあなたは、こんな気持ちを卒業したかな

「描くことの喜びは、絵を見た人の心を動かすこと」という哲学を持つバンサンが描く絵本。父親と母親に自分の気持ちを話せない少女が、家出を決心する。森の中に...。そして、古い屋敷の庭で両親に手紙を書いていくうちに少女の心は...。深い森や、お屋敷の茂った庭の中の少女の心の動きが、絵を見ているだけで手に取るように迫ってきます。



#### 【特集編集後記】

いかがでしたでしょうか。20冊を選んだ感想としては、「ミステリー作品がなかった」ことや「誰もが認める名作」が選べなかったという点で少し不満が残るけれど、読んだことのないジャンルの本を手取るきっかけとしては、十分な役割が果たせたのではないかと思います。

この特集を編集した僕も、実は20代。自分は結構本を読んでいると思っていたので、知らない本の話ばかりが話題にあがったことで、「本の世界って深いなあ」と改めて思い知りました。まさに僕自身が、選ばれた20冊の中のどれから挑戦しようかと、考えている一人です。

りぶらへ足を運んだら、20代の方はもちろん、特集を見て気になる1冊があったら是非借りてみて欲しいなあと思います。きっと「読んでよかった」と思える本に出会えると思いますよ。(MF)

#### 選書委員

米津 眞 (りぶら総合館長)  
川口 忠明 (図書館職員)  
三宅 知子 (図書館職員)  
巽 教範 (図書館流通センター)  
鍛冶 清 (りぶらまつり2010実行委員長)  
鈴木 千鶴 (市民活動センター)  
山田 美代子 (LSC代表)  
戸松 啓二 (LSC顧問)  
戸松 恵美 (LSC事務局)  
記録: 福留 誠 (おいでんクラブ)







急速浮上した“りつまらぶり”疑惑  
右から読むと…

LSC 山田美代子代表の开会挨拶



自ら実行委員長をかって出た鍛冶清氏  
なんだか過激派にも見えるけど情熱派だ



米津総合館長の开会のお言葉（街頭演説ではない）

「りぶらまつりはねえ…」  
今回りぶらまつり実行犯(いや、事務局)Y氏  
との接触到成功した我々だったが、その独占  
インタビューの内容は衝撃的なものだった。

**無関係者** などいない!!  
それがりぶらまつりの手口だ!



りぶらまつりの真相を語りだすY氏

「りぶらまつりはねえ…」Y氏は重い口を開いた。「りぶら開館から2年経ったからね、りぶらという機能・空間の特性を活かして生まれたつながりを、りぶらの外(地域)へ広げていくことを目指した祭りなんです。あ、ちなみに、りぶらの機能ってのは『「図書館を活用する」「市民の活動を支援する」「文化を創造する」「交流を促進する」という4つの機能を束ねる複合機能』のこと。それと『市内各地で起こっている地域固有の多様な取組みを束ねる中央機能』のことね」。あまりの無難な答えに、我々は逆に度肝を抜かれた。だが、掘り下げるうちに徐々にその核心に迫ることになる。

その内容たるや、Y氏のぼさぼさヘアーをも忘れさせるほど、衝撃的な内容であった。「参加者自らの意志で、自分たちはまつりの中で何ができ、何を目標とし、どんな人たちと一緒にまつりを創りあげていくのかを決めていくのが、まつりの特徴なんです。だから参加者の実力がそのまま結果に表される。参加者の顔ぶれによって、どんなまつりになるかわからない。正解も不正解もない、ある意味ボールに包まれているのも、それがりぶらまつり。実行委員長やリーダーなども参加者の中から選ばれ、りぶらまつりを創りながら役割や関わり具合・やる気さえも決められていくんです。要するに無関係な存在はないってことです。そういう意味では発展途上なりぶらまつりだけど、可能性も無限大ってことですわ。フフフ。」Y氏は不敵な笑みを浮かべながら、こう言い切ると、図書館の中へ消えていった。

**参加団体**

- ※順不同  
NPO法人ハートフルフレンズ/遺言・相続・なんでも相談センター/老人介助コスモスの会/岡崎ひとみ会/岡崎市地球温暖化防止隊/NPO法人路の墓/連尺学区朗読の会ヒメボタル/福祉工房あいち/艶友会/LICC自主事業運営委員会/Sunny days/「このままそのまま」編集室/RORO COLOLE/岡崎オカリナ合奏団/焼き絵を楽しむ会/東海きりえ美術会/個育ちサロン「ま〜も」/NPO法人COCONE T愛知三河支部/表装・一樹会/日本プリザーブドフラワー協会認定教室 ベイシック/りぶらっこ★ふぁみりー/Halau Malama ma Lani/日本総合空手道 命武會/NPO法人おかざき農遊会/岡崎市難聴・中途失聴者の会/連鼓/音楽グループ「おたまじゃくし」/太極拳 岡崎鶴の会/りぶらdeらぶりー/岡崎フォークダンスを楽しむ会/おはなしポケットやほぎ/岡崎子どもの本研究会/おはなし会 おひさまパン/大人が楽しむ朗読の集い「ほっこり」/おはなし ほたる/手作り絵本の会 金のりんご/詩を読もう/NPO法人食育推進ネットワーク 岡崎支部クックスマイル/マンドリンアンサンブル・たんぼぼ、光が丘女子高等学校/図書館まつり実行委員会/おはなしの森「コロボックル」/岡崎市中央図書館/読書会 たからじま/岡崎むかし語りの会/NPO法人岡崎まち育てセンター・りた



# 知られざる舞台裏!

# 2010

お祭りジャーナリスト(?)  
 深谷紗与子  
 (NPO法人岡崎まち育てセンター・りた)



この見覚えのある黄色い物体の正体は?

- 開催日: 2010年11月13日、14日
- 場所: 図書館交流プラザ・りぶら
- 来館者数: 約16,500人
- 参加団体数: 66団体
- 総プログラム数: 73
- 準備期間: 5ヶ月
- 実行委員会: 計5回

## 開催前日



こんなところに隠し扉が。機密文書か?  
 (そんなわけない)



着々と準備が進められていく中で、アノ謎の黄色い物体が運び出されようとしている。

高校生もボランティアで準備に参加。カメラを向けるとすかさず「戦場カメラマンだ!」。とピースする彼ら。残念ながら、私は「お祭りカメラマン」です。



## オープニング



我らが鍛冶委員長を先頭に、4ステージの猛者たちが鼻息荒くシビコ西広場を、連鼓さんの勇ましい太鼓のリズムに合わせて出発した。



行進隊がりぶら東口エントランスに到着すると、今度はこちらの園児たちの太鼓で華やかに開会式が幕を開けるのだった。



そして、シビコ西広場に取り残された連鼓さん。一気にひと気がなくなる中、そんなこともものともせず、打ち鳴らし続けたあなたがたの勇姿を、私は決して忘れない。



←ベールに包まれていた謎の物体

米津総合館長、鍛冶実行委員長、山田代表による開会宣言により、ついに「りぶらまつり」が開催!

そして、ついにあの謎の物体の正体が明らかに!  
 それはまさに「りぶらいおん」ねぶたであった!  
 (とんだ茶番ですみません)

ちなみに、除幕用に使われた紙は去年のパンフレットで、実は私がデザインしたもの。目の前で作品が八つ裂きにされるのは若干辛い(泣)



オープニングの最後を飾ってくれたのは、あの欽ちゃんの仮装大賞で優勝した「ぐるーぶ びっくり箱」さん。「つながりんぐ」が鬼にさらわれてしまった! こりゃ大変! (全然感情がこもってないのはご愛嬌)。

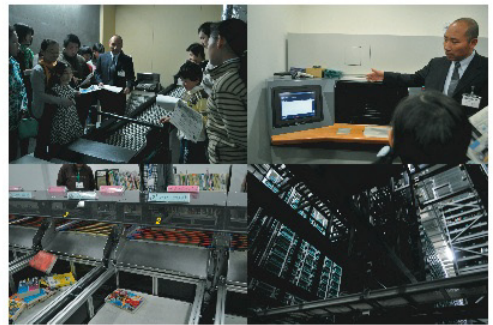


最後は各ステージの作品と共に全員記念撮影

# 特別レポート 第2弾

特別レポート第1弾ではりぶらまつりの真相に迫ってみたが、第2弾では当日の様子をお祭りカメラマンである私の目と言葉でレポートしよう。先に断っておくが、極めて主観的。独断と偏見の極みである。

フィナーレで鍛冶実行委員長男泣き



図書館バックヤードツアーの様子。実は私が一番ハッスルしてしまったコンテンツの一つ。何気に左下の自動仕分け機はまだ日本の図書館に4機しかないらしい。りぶらすげー。



りぶらいおんねぶたパレードと太極拳の奇跡のコラボレーション。まさに静と動の"対極"であった …お後がよろしくないようで。



こんな強面のに一ちゃんに、「おお、色で遊んでかねーか？」って誘われたら、逆に行けない…。でも話すと、とってもやさしいお兄さん。



そして、最後は「来年も、りぶらまつり盛り上げるぞ！」という気合を込めて、いつもの、1、2、3、ダー——!!!の掛け声でりぶらまつり2010は幕を閉じた。



よさこいにあわせて鍛冶君もノリノリ。お、よく見るとフォークダンスの方々も。これが本当のよさこい総踊り。



「禁じられた遊び」。私の大好きな曲です。二人の絶妙な間が、曲の哀愁をさらにかもし出していました…。



最近の子は駄菓子屋って知ってるのかな？



これは絵手紙の会さんが養護学校で授業した時の作品。玄人はだした！すごい！



フラダンスの動きは、自然を体現したものなんだって。ハワイらしいよね。ところで、シャボン玉と戯れてるお嬢さんも、もしかしてフラダンサー？



←ス、スイカに顔が!?



オカリナ合唱団さん。どうしても私にはオカリナが胃袋に見えて仕方がないのです…

岡崎NPO界の三十路アイドル。AKBには負けないぞ。年齢だけは(泣)



見よ、これが欵ちゃんて金ちゃんに輝いた妙技…



匠の腕にかかれば、何という事でしょう！生の芋が焼き芋に。



来年ぜひ、使わせていただけませんかねえ。



私もやったよ。プチカラーセビー。引きこもりだった(泣)。



美しい所作を身に付けた小さなレディに敬服！見習います。

## エンディング



最後のプログラムが進行している間も、舞台裏はエンディングに向かって戦場と化していた。各ステージの目玉企画が続々と集まってくる。



エンディングがいよいよ幕開け。各ステージのリーダーたちが、それぞれの思いのたけを語ってくれた。



そして、準備期間5ヶ月、と当日の思い出が切ないメロディと共にリマインドされた。

皆さんの胸にはどんな想いが込み上げてきたのだろう。記録ではなく、記憶に残るまつりになったのだろうか。

こうしてまつりは幕を閉じた…かと思せかけて、実はスペシャルサプライズが。実は11/14は鍛冶君の誕生日だったのだ。特別映像とみんなで書いた色紙を贈呈。鍛冶君、おめでとう！



おまっりカメラマンは見た!

# りぶらまつり2010



## 2日間の様子

コメントをつけていると写真が掲載できないので、ここからは写真だけでお楽しみください。けっ、決してコメントを書くのが面倒になったわけではない(汗)。それにしても、会期中で何と2千枚近くの写真を撮影した。その中から、この限られた紙面で掲載できる写真を厳選しなければならないのは、私にとって非常に辛い事である。



### ジャーナリスト雑感

私事で恐縮だが、前述の通り、私はりぶらまつり2009のパンフレットをデザインさせていただいたご縁で、昨年は一般市民として祭りに参加した(当時はりたの職員ではなかった)。そのときの感想は「雑多で入りにくい感じだった」と記憶している。しかし、今年ほぼすべてのプログラムを見学させてもらった感想は、昨年とは180度異なるものとなった。「何て充実した祭りなんだ!」。職務もそこそこに、参加者に混じって大いに楽しんでしまったわけである。去年との違いは何か? もちろんプログラム自体の充実も考えられるが、もっとも大きな要因は、私が”内側”に入ってしまったことだろう。やはり同じ事象でも、その背景を知る知らない、あるいは見る角度によって見え方は一通りではない。後ろ向きに考えれば、うちわだけで盛り上がっている祭りと言えなくはないのだが、前向きに考えれば、うちわを増やすこと自体が祭りの意義であるとも言える。つまり、祭りを楽しんでいただくプロセスの中で、試行錯誤しながら共感者を増やしていくことだ。りぶらに訪れるすべての人がうちわになる日まで。

### ■お祭りジャーナリスト(?) 兼 編集 深谷 紗子

岡崎まち育てセンター・りた広報担当。当日たまたま役割がなかったという理由だけで、急遽お祭りジャーナリストに。従いまして、この記事における文責はすべて私にあります。

### 謝罪とお礼

今回レポートを作成させていただくにあたり、多少過激な表現や過剰な表現が多用されておりますが、決して悪意はございません。万が一、このレポートを読んでご気分を害された方がいらっしゃいましたら、心よりお詫び申し上げますとともに、このようなレポートを掲載許可くださったLSCの皆さん、および最後までお付き合いくださった方に心から感謝申し上げます。





## りぶら中央図書館情報

### ご存知ですか？ 図書館サービスがあります 「ティーンズ向け冊子【図書缶】の発行」

2階ポピュラーライブラリーのティーンズコーナーには、「図書缶」というタイトルの、ティーンズ(10代)向けの本の紹介や、オリジナル小説を掲載した冊子が置いてあります。明大寺町の図書館時代に「J・PAPER(ジェイ・ペーパー)」という誌名でスタートし、りぶら開館とともに、名称をリニューアルしました。本に限らず、今ティーンズが注目していることや、ハマっていることも、オリジナルのイラスト付きで紹介しています。特に表紙のイラストは毎回力作ばかりで、底知れぬパワーを感じます。

執筆・編集しているのは、本が好きな中学生・高校生と、図書館のティーンズ向け図書担当スタッフ。月に1回集まって、編集会議を兼ねた交流会を行い、隔月で発行しています。大人が子どもに向けて、教えるように情報発信するのではなく、ティーンズの目線をそのままに掲載するようこころがけています(そのパワーに大人のスタッフが圧倒されているかも)。ヤングアダルト(若いけれど、オトナでもある)といわれるティーンズが、どんな視点を持っているのか、ここにそのヒントがあるかもしれません。



「図書缶」最新号は、ティーンズコーナー掲示板に貼られています。バックナンバーも置いてあります。

### レファレンス事例集 8

岡崎市立中央図書館でこれまでに受けた資料相談事例を紹介します。

「へえ～、図書館でそんなことがわかるの!」と感動(?)できるネタ満載ですよ。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

<http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/common.Controller> より

質問	岡崎市西本郷町和志山にある古墳が陵墓参考地から「五十狭城入彦(イサキイリヒコ)の墓」とされたのはいつからか？
回答	明治29年に「五十狭城入彦皇子」の墓の伝説地として宮内庁の管理に移り、昭和16年4月に墓として定められた。
プロセス	『新編岡崎市史 総集編』の「和志山古墳」の項目には明治29年に陵墓参考地となった旨の記載はあるが、それ以降の経緯はない。 → 郷土標目(郷土資料検索用システム)で「西本郷古墳群」「和志山古墳群」を検索し、参考資料として登録されている『岡崎市史 矢作史料編』を見る。
参考資料	『岡崎市史 矢作史料編』岡崎市役所 1961年 『新編岡崎市史 20 総集編』新編岡崎市史編さん委員会 1993年 『五十狭城入彦皇子御墓』土屋彦吉著 1941年

### りぶら映像アーカイブス

岡崎市立中央図書館2階の視聴覚ブースでは、ビデオやDVDなどの館内資料だけでなく、年代別にアーカイブス化された岡崎に関する貴重なニュース・番組映像を視聴することができます。

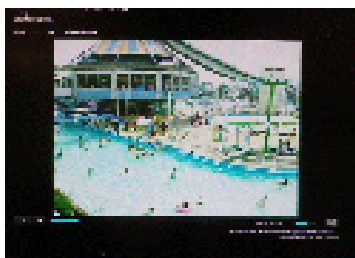
懐かしい映像のなかに、ひょっとして、あなたも登場しているかも?!

紹介映像 8

「岡崎市スポーツガーデン

『あの夏の歓声よ、永遠に!』

放送年:平成15年(2003年)



昭和43年にオープンし、夏はプール、冬はスケートと、市内外から大勢のレジャー客を集めてきた岡崎市スポーツガーデン。レジャーの多様化、施設の老朽化により、この年、閉鎖を余儀なくされました。

スポーツガーデンの最後の夏を楽しむ人々、そしてお客様を温かく迎え、見送り、最後の作業に黙々と取り組むスタッフの姿を、ノスタルジーを込めてとらえた映像です。

このスポーツガーデンがあった場所に、今では「りぶら」が建っているわけで、ほんの10年以内のうちに、街の風景が大きく変わったことを感じさせられます。





## りぶら中央図書館 2階テーマ展示コーナー

1月4日(火)～2月15日(火)

# 江の生きた時代

平成23年のNHK大河ドラマは、「江 一姫たちの戦国時代」が放映されます。主人公の「江」は織田信長の妹・市の三女であり、二度の結婚を経て、後に徳川二代将軍秀忠の妻となった女性です。

戦国乱世の時代に、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康と、天下の武将に深く関わりを持ち、時代に翻弄されながらも争いのない平和な時代を願い、大奥を

創設するなど、「江」はその後の長期にわたる天下太平への礎を築きました。ドラマは、戦国の世にあっても、しなやかに生きた女性の視点で描かれていきます。

図書館では皆さんの関心の高いこの大河ドラマをより興味深く見ていただくために、登場人物に関連する伝記や小説、歴史書・旅行ガイドブックなど、幅広い分野から図書館資料を集めました。

1	浅井三姉妹江姫繚乱	篠綾子 / 著	日本放送出版協会
2	近江戦国の女たち	畑裕子 / 著	サンライズ出版
3	お江 将軍家光と皇后の母となった戦国の姫	楠戸義昭 / 著	静山社
4	おんなたちの城 徳川二代将軍秀忠の妻	大栗丹後 / 著	有楽出版社
5	華麗なる地平線 (史詩浅井長政)	笹沢左保 / 著	中央公論社
6	清洲城と名古屋城 織田・豊臣から徳川へ	中村栄孝 / 著	吉川弘文館
7	湖北の鷹 浅井三代記	佐竹申伍 / 著	光風社出版
8	江 姫たちの戦国 上・下	田淵久美子 / 著	日本放送出版協会
9	江の生涯 徳川将軍家御台所の役割	福田千鶴 / 著	中央公論新社
10	死して残せよ虎の皮 浅井長政正伝	鈴木輝一郎 / 著	徳間書店
11	小説徳川秀忠	童門冬二 / 著	学陽書房
12	戦国三姉妹 茶々・初・江の数奇な生涯	小和田哲男 / 著	角川学芸出版
13	戦国時代の女性 日本女性の歴史	井上靖 / 監修	暁教育図書
14	ちゃちゃの城	太田竜子 / 著	郁朋社
15	徳川三代と女房(おんな)たち	中島道子 / 著	立風書房
16	徳川将軍家の結婚	山本博文 / 著	文芸春秋
17	美女いくさ	諸田玲子 / 著	中央公論新社
18	姫君たちの大戦国絵巻 戦国武将に嫁いだ女	新人物往来社	新人物往来社
19	利休にたずねよ	山本兼一 / 著	PHP研究所
20	流星 お市の方 上・下	永井路子 / 著	文芸春秋



# 1・2月 りぶらイベントガイド

催しの予定は変更になることがあります。詳細は主催者へお問い合わせください。

日時	イベント名	料金	主催
1月7日(金) 全3回 14:00～16:00	LICCの講座 ことばの教室・タガログ語	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
1月9日(日) 14:00～16:00	LICCの講座 ワールドレクチャー・フィリピン	無料	りぶら国際交流センター 23-3148
1月11日(火) 10:00～11:00	寺子屋☆脳きらり 認知症予防の脳トレーニング	無料	長寿課 23-6837
1月13日(木) 10:00～14:00	ひざ掛けづくり 造ったひざ掛けは施設に寄付します	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
1月15日(土) 1部 9:45～ 2部 13:45～	NPO活動支援講座 ～NPOが活動のための収入を確保するために～	各1,000円	りぶら市民活動センター 23-3114
1月22日(土) 10:00～12:00	庭で遊ぼう「りぶら いきものみつけ隊」 岡崎で見られる身近な鳥たち	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
1月23日(日) 10:30～16:45	市民を巻き込む・広報コーディネート研修-第1回- ボランティアコーディネート業務の理解、 団体内のボランティア業務の整理	無料	特定非営利活動法人 ボラみみより情報局 052-799-5356
1月29日(土) 11:00～13:00	LICCの講座 多文化紹介セミナー・韓国料理 イカのコチュジャン炒め、ジャガイモのチジミ	500円	りぶら国際交流センター 23-3148
1月30日(日) 全8回 10:00～12:00	新米コック 男の料理教室II	4,800円	りぶら市民活動総合支援センター 23-3241
1月30日(日) 13:30～16:00	二十七曲りシンポジウム 二十七曲りに関わるこれまでの取組みの紹介、 講演など	無料	政策推進課 23-6408
2月3日(木) 14:00～16:00	シネマ・ド・りぶら 上映会 「素晴らしき哉、人生!」	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
2月4日(金) 14:00～16:45	しゃべり場 第9弾 話してみよう、聞いてみよう! 雑談会	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
2月5日(土) 10:00～16:30	外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
2月6日(日) 10:30～16:45	市民を巻き込む・広報コーディネート研修-第2回- ボランティアマネジメント① 活動プログラムの作成から募集へ	無料	特定非営利活動法人 ボラみみより情報局 052-799-5356
2月10日(木) 10:00～14:00	ひざ掛けづくり 造ったひざ掛けは施設に寄付します	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
2月13日(日) 10:30～16:45	市民を巻き込む・広報コーディネート研修-第3回- ボランティアマネジメント② 募集・選考からフォローまで	無料	特定非営利活動法人 ボラみみより情報局 052-799-5356
2月13日(日) 16:00～	山下洋輔ピアノソロ & 絵本ライブ Jazz界のスーパーピアニスト原作の絵本 「つきよのおんがくかい」をベースに Beanzz と共演!	4,000円	岡崎市図書館交流プラザ 23-3100
2月26日(土) 11:00～16:30	LSC活動紹介のパネル展示(11:00～) りぶらフォーラム(13:30～) 『りぶら』活用した、これからの生涯学習	無料	りぶらサポータークラブ 23-3114(市民活動センター内)
2月27日(日) 10:00～12:00	市民を巻き込む・広報コーディネート研修-第4回- 今回のボランティア募集実習におけるフォローアップ	無料	特定非営利活動法人 ボラみみより情報局 052-799-5356





## 特派員レポート vol.7

## りぶら いきものみっけ隊

上地小学校 4年 丹羽将太

「ミーン、ミーン。」

今日も公園で、朝からセミがうるさくないている。ぼくはカメラを持って、公園に行く。去年までは、あみを持ってセミをとっていたが、今年はデジカメでいきものをとっている。ぼくはいきものさがしをがんばっている。

2年生の時からソフトボールを始めた。本当はあまり入りたくなかったけど、ふたごの兄が「入りたい」といったので、一人ではかわいそうだから、ぼくはなんとなく入団した。おためしの期間は半日練習で楽しかった。午後から魚とりやすきなことができる。ソフトはきれいじゃないけど、3年生から一日練習になって、さすがに土曜も日曜も、朝6時から夕方5時までほうざりする。

お母さんに「本当に好きなことでないと、一日はできないね。将くんも、む中になるものが見つかるといいね」といわれた。ぼくもみんなみたいに、む中になれることがあるのかなあ。それがソフトボールなのか、他のスポーツなのか、ぼくにはまだわからない。

ゴールデンウィークに水族館に行った。ぼくがびっくりしたのは、大きな水そうにいろんな魚やカモがいたことだ。魚がカモに食べられないのかと心配した。お母さんが「この水そうはありのままの自然をさいげんしているんだよ」と、説明してくれた。

その後、スタッフの人がラップで「セイブツ タヨウ セイ」と、歌っていた。ぼくは、何だろうと思っていたら、お父さんが「今年の10月に、名古屋でいきものについて、世界中の人が集まる会議があるよ」と教えてくれた。

新聞をよく見ると「生物多様性」の文字がたくさんっている。6月の新聞には「岡崎いきものみっけ隊ぼ集」という記事があった。お母さんが「この、いきものみっけ、将くん好きそうだよ、参加してみる？」というので、ぼくは「少年団よりこっちがいいな」といった。

ぼくは、「岡崎りぶらいきものみっけ隊」に参加することになった。いきもの

みっけ隊は、いきものが好きな人がおおぜい集まる。ぼくより小さい子から大人まで、いろんな人が来る。岡崎公園の周りを歩く。ぼくだけでは見すごしてしまう葉のうらの小さなてんとう虫も、みんなでさがすと次々に見つかる。

「こっち、こっち。ここにいるよ」と、みんなが集まる。りぶらの周りには、本当にたくさんの生き物がある。こんな町の中なのに、なんでだろうと思っていたら、「岡崎公園はむかしから木があったり、伊賀川が公園の中を流れていたりして、自然がゆたかなんだよ」とみっけ隊のおじさんが教えてくれた。

いきものにくわしい人もいっぱいいる。ナメクジにはにせものと本物がいて、さわるとわかるみたいだ。女の子がナメクジをたくさんさわっていた。ぼくはナメクジはあまり好きじゃない。だけど、好きなものやとくいなことは、人によってちがうんだと思った。いきもの好きにも、いろいろな人がいるんだと感心した。

ぼくは家に帰って、庭にいるいきものもさがしてみた。たくさんの虫が庭にいることに気づいた。アシナガバチ、コガネムシ、アゲハチョウ。土をほいたら、ミミズみたいな変ないきものがいた。頭が三角で色はナメクジみたいだ。ぼくはびっくりして「新種発見」といって、お母さんをお呼んだ。お母さんは「ぎゃあ！何、これ？学会で発表したら、名前が『将太ミミズ』になるかもよ」といった。

インターネットで調べたら、正体は「コウガイヒル」だった。庭とか、身近にいるいきものらしいが、ぼくたちは初めて見たのでびっくりした。まだまだ知らないいきものがたくさんいることがわかった。さがして調べてみるとおもしろい。

今まで見つけられなかった小さな虫や知らない植物、木の上の鳥など、ぼくの知らないところにもたくさんのいきものがいて、いろんなことにつながっている。でも、外来生物は、生たい系をこわしてしまう。

温だん化によっていきもの種類が変わってきている。みっけ隊のおじさんは、「昔は、梅雨のころにはあじさいとうじょうじゃカタツムリを見た。さい近は、めつ

たに見られない。数年後にはまったく見られなくなるかもしれない」といっていた。ぼくも、今年見たのは2回だけだ。クマゼミも、むかしはみんなに自慢できるセミだったらしいが、今では公園で当たり前に見ることのできるセミだ。

岡崎公園には、コノハズクが来ている。人間たちが鳥にいやな思いをさせなければ、この鳥は、次の代もまた次の代も、同じところで子育てをするそうだ。動物・草や花・小さな虫など、たくさんのいのちのつながりを「生物多様性」というそうだ。そこには、なくてもいい命はないんだ。みんなつながっている。だから人間は、こわさないようにそっと見守って、おたがい生きていることをみとめあえるといいなと思う。だからぼくは、虫を採るのはやめて、デジカメでそっと近づいて、写真を撮る。みんなつながっているのだから、ぼくのくらしにもこの小さな命が関係するんだ。命を大切にしないと。

ぼくは、少しだけ、む中になることが見つかったと思う。ぼくは、今日も「犬のさんぽバッグ」にデジカメを入れて、家の周りのいきものを見つけている。人間も犬も植物も、みんな大切な命、みんなつながっているのだから。それをぼくは、そっと見守っている。





特派員レポート vol.8

HAPPY パパプロジェクト【8/22・9/19・10/2・10/30】

今年の4月から話し合いを重ね、10月30日の講座をもって、合計4回のHAPPY パパプロジェクトを終えました。

子育て支援、その中でも父親の支援というもの、りぶらの生涯学習として必要なのか？ 市民のニーズにあるのか？ ありとすればどのような支援がいいのか？ などを考えていくための事業として実施しました。

そして、願わくばこれをきっかけに、父親同士のネットワーク作りに発展し、父親にも、仕事以外で繋がりが持てる場を作ることができればという思いもありました。

第1弾の「親子でいきものみっけ！」と第3弾の「親子でピザ作りに挑戦」は、父子で参加するイベントです。それぞれ20名から30名近くの親子が参加し、

「久しぶりに子どもと触れ合う機会になりました」という感想をいただきました。

子どもと触れ合いたいと思いながらそうはいかない現実でも、「この日だけは子どもと向き合うぞ」という、父親の優しさが随所に現れた時間になりました。

第2弾の「叱り方・ほめ方講座」と第4弾「パパ私はどこから生まれたの？」は、パパのための子育て講座です。子どもは別室で絵本の読み聞かせや、鉄道の話などを楽しく聞いたり遊んだりしました。参加者の子どもの年齢は2歳から10歳まで幅広く、どの父親も「子どもをよりよく育てたい。しかし、どのように接していけばいいのか分からない」という思いが共通していました。

子どもの虐待などが社会問題になり、誰もが「子育て不安」になる今日この頃、そんな実態がここでも感じられました。

しかし、「子どもを別室に連れて来たときと、迎えに来たときのパパの顔が変わっていた」「みんな、とても笑顔になっていた」と、子どもを見ていたスタッフの言葉が印象に残りました。

知識は、不安を勇気に変える。そんな講座がりぶらで数多く開かれること、そんな生涯学習を考えていきたいと思いました。  
斎藤美紀



特派員レポート vol.9

シネマ・ド・りぶら 『私の頭の中の消しゴム』【12/2：木】

この映画は、若年性アルツハイマーをテーマとし、日本のテレビドラマを原作として韓国で制作された映画です。今回は初めての韓国映画上映ということで、いつものシニア年代とはファン層が異なり、韓流ファンと思いき新しい「シネマ・ド・りぶら」ファンの来場に感激しました。

当日の入場者数は105名(内、車椅子の方1名)。ホールの前部椅子席は取り外し可能ですので、車椅子でもOKです。準備・受付などのお世話は、ボランティア3名、LSC会員4名の計7名で行いました。回を重ねるにつれ、段取りもよくなり、スムーズに対応できるようになりました。

映画が終わって、目を赤くしたり、涙をにじませて帰る人から「ありがとうございました」と声をかけていただき、スタッフは感激しました。何人かの常連さんの他、初めてという人もかなりあり、「もう8回も続けているの？」とか、「こ

のような企画は本当に有難い」など、勇気付けられる言葉をたくさんいただきました。

「シネマ・ド・りぶら」は、昨年10月から『第三の男』を初上映としてスタートしました。この上映会は、図書館所蔵のDVDを活用して、りぶらホールの大きな画面で鑑賞していただくことによって、図書館の資料の利用促進を図るとともに、映画館の雰囲気味わっていただくことにあります。ある年配の男性から、「映画が好きで数十本のDVDを持っているけれども、家でひとりで観ては、感激がない。この上映会は、映画館で観ているように迫力が有り、周囲のひとのざわめきが伝わり、本当に楽しい」とコメントをいただきました。

上映前に、りぶらホールのホワイエにて「シネマ・ド・サロン」と称し、茶菓子を用意して、映画について語る場を設けています。入場時に手渡される「シネマ・ド・コラム」を手にして、映画談議

をしましょう。コラムには毎回、スタッフが頭をひねってあれこれ書いています。また、上映日を挟んで前後一週間には、2階ポピュラーライブラリーにて、上映映画の関連図書の展示を行っています。映画とあわせて、関連本も読んでみてください。  
内田 明

